

氏 名:星川彩

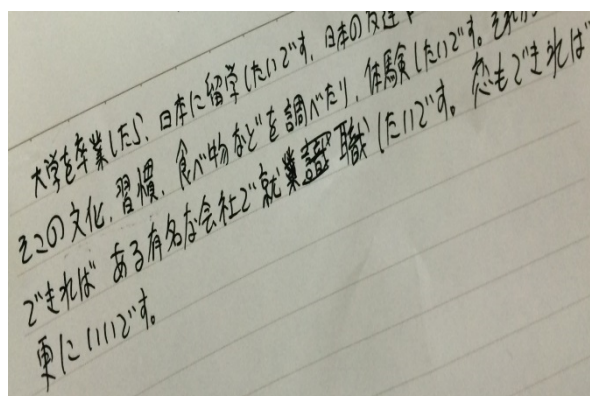
所 属:地域教育文化学部地域教育文化学科異文化交流コース 3年

派遣先:延辺大学(中国)

派遣期間:8月31日～9月13日(14日間)

○日本語教室での指導内容

派遣期間が同じだった学生ふたりと協力し、3人で授業を担当した。私たちが受け持ったのは日本語学科の生徒の日本語会話、作文の授業と全学向けに希望者を募集し、週に2回開いた日本語教室だった。日本語会話と作文の授業では日本語学科の先生の授業でアシスタントをしたり、自分で授業を担当させてもらう機会もあった。アシスタントとして授業に参加したときは、主に日本語での自己紹介のやり方を教えた。派遣された私たち日本人同士での会話を聞いてもらうことで、雰囲気をつかめてもらったのではないかなと思う。私たち自身が行った授業では、最初に私たちの自己紹介と生徒達の自己紹介を行い、そのあと山形大学を紹介し、私たちがどんなところで学んでいるのかを知ってもらった。山形について知っている学生はほとんどいなかったため、山形の観光地、有名な食べ物、おまつりを紹介し、私が実際に観光地に訪れた時の写真も交えたりすることで、生徒達の興味を引くことができた。ほかには早口言葉を使った伝言ゲームを行った。授業の後半では、生徒達に日本語で作文を書いてもらい、いくつかのグループに分け発表してもらった。将来の夢や夏休みしたことをテーマにした。多くの生徒達が将来は日本で働きたいと書いており、強い意欲がうかがえた。一番よかったと思う授業はディクテーションを行った授業だった。テーマは一日の過ごし方、恋愛、一ヶ月のお金のやりくりの三つをテーマとし、グループごとに話し合ってもらい、最後に内容をまとめて発表してもらった。私たち三人はそれぞれグループに入り、話し合いの進行をしつつ、まとめることを手伝った。中国と日本の学生の違いがみえたのが興味深かったし、恋愛については普通の授業ではなかなか取り扱わないものだったため、生徒達の話はとても新鮮で、お互いのことをより知ることができた良い機会となった。週に2回開いた日本語教室は、三回受け持ち、回数としては一番多かった授業であった。日本語学科ではない生徒達向けの授業だったため、ひらがなの読み方、基本的な会話を教えた。授業のなかのアクティビティとして折り紙のやり方を教えたり、しりとりをした。この授業は日本語を学んだことがない生徒がほとんどだったため、日本語や英語を使い授業をしたが、英語のレベルも人それぞれだったので、伝わりにくいところは中国語を使って臨機応変に対応することが出来た。授業の終わりにアンケートをとり、次の授業で何について学びたいかを書いてもらい、生徒たちの興味に合わせて授業を進めることができた。日本語の勉強だけなら日本語学科にいる先生の授業を受けることで学べるが、私たち日本人と実際に会話することはほとんどない生徒達にとっては、私たちから聞く話はとても新鮮だったということを生徒に言ってもらえて嬉しかった。



○日本語教室以外での現地での交流活動

私たちの派遣期間最初の1週間がちょうど1年生の軍事訓練とかぶってしまったため、全学向けの日本語以外の日に、以前山形大学に留学した生徒に延吉観光に連れていってもらった。最初の場所は中国と北朝鮮の国境だった。私たち自身国境というものを見ることが初めてだったため非常に興味深かった。近くに彫刻公園があり、そこでピクニックする人も多かった。緊迫した様子ではなかったが、国境沿いには有刺鉄線が巡らされていた。また北朝鮮側には監視小屋がいくつもあり、それらを実際に目の当たりにし、北朝鮮の警備の厳しさを知った。ほかには延吉の観光地である帽子山に登り、アクティブに過ごせた。



私たちには延辺大学の学生がチューターとしてついてくれて、彼らとご飯を食べにでかけることも多かった。延吉は朝鮮自治国でもあるため中国料理のお店だけでなく朝鮮の食べ物も多くあった。チューターの子がおすすめしてくへた包飯というものはじめて食べたが、とても美味しかった。たくさんの野菜の葉の種類の中から選び、その中に鴨肉や豚肉、キムチ、ニンニク、ソースを包んで食べるという朝鮮式の食べ方を教えてもらった。また延吉のマッコリを飲みに連れていってくれた際には飲み会のときによくやる延辺大学生流のゲームを一緒に楽しみ、私たちも彼らに日本でのゲームを教えた。チューターの子以外にも授業を通して仲良くなった生徒と一緒に買い物にいき、地元の人知っている穴場スポットに行くことができた。生徒たちが開いてくれたご飯会では、彼らが気になっているアニメや俳優の話の聞いたり、日本の政治についての話まで幅広い話題で話した。日本語、英語、中国語を使ったグローバルな会となり、とても充実した。延辺大学の国際交流室の黄先生と全先生とはそれぞれご飯を食べながら交流する機会があった。生徒たちの話を聞き、今後も延辺大学の親善大使としてやっていってほしいという話もしてくれた。ほかにもサッカーの試合を見に連れて行ってくれて、現地ならではの楽しみ方を体験できた。

○プログラムに参加した感想

生徒たちの新学期の正規の授業を担当するというので、とても緊張した。最初は準備が足りず、授業の中での時間配分、内容などについて悩まされ、授業の進め方が不安だったが、徐々に慣れていき、それも生徒たちの日本語を学ぶ意欲、日本に対する興味関心のおかげだったと思う。授業で書いてもらった作文やグループでのディスカッションを通して、生徒たちが今何を考えているのかを知ることができたし、彼らと年が近い私たちから日本語、日本の文化を発信することができてよかった。また、私たちの話に興味を持ってくれたことが嬉しかった。生徒たちとはさほど歳がかわらず、勉強以外のことでも交流がはかれたし、仲良くなれた。帰国した今でも連絡をとっている生徒もあり、国を超えたつながりができた。多くの生徒たちが日本に留学したいという目標を持っているため、少しでもそのサポートをすることができたのではないかと思います。

う。何より延辺大学に多くの友達ができ、とても嬉しく思う。この縁をこれからも大切にしていきたい。

○自分の目標の達成度や努力した経緯など

私は大学で英語と中国語を学び、将来はこれらの言語を使った仕事につきたいと考えているため、現地の学生と交流を深めるなかで、自分の言語能力を高めるとともに、日本語や日本について興味を持ってくれている生徒たちに情報を発信するという目標を達成できた。授業ではもちろん、授業以外での交流も大切にし、その中でお互いの国や文化、生活についてより知れたと思う。メディアで伝わるのが全てではなく、実際に現地での人とかかわりや話し合いを通して学ぶことも多かった。努力したことは、日本語があまりわからない生徒たちには、英語や中国語を使って説明し、理解してもらおうとしたことだ。街での買い物や生徒たちとの会話でも中国語は役立った。

○今後の展望

また機会があれば、もう一度延辺大学にいきたいと考えている。そのための中国語や英語をもっと勉強し、教えたことをしっかりと伝えられるようにつとめ、交流を深めたい。また多くの生徒たちがアニメや日本の政治に興味を持っているため、私も日本についての知識を身につけ、彼らに伝えられるようにしていきたい。大学での勉強を怠らず、外国語の力を高められるように日々努力を重ねていき、これからも成長できるように頑張りたい。

